

# みなみあそ農業最適化推進運動

農委会名：南阿蘇村農業委員会

## 1 地域の概要

南阿蘇村は、熊本県の北東部、阿蘇山・阿蘇カルデラの南部に位置し、総面積は13,730haで、うち農用地は2,885ha、人口は約1.0万人で少子高齢化により年々減少傾向にある。

村の中央部には日本名水百選に選定された白川水源を源とする白川が東西に流れており、湧出する地下水資源に非常に恵まれた地域である。

南阿蘇村の農業は、米を基幹作物としながら野菜や花き、果樹などの園芸作物、肉用牛などの畜産、葉タバコなどの工芸作物との複合経営を主体に多種多様な農業生産が行われている。

## 2 農業委員会の体制

- (1) 農業委員数 19人（うち、認定15人、女性4人）
- (2) 推進委員数 20人（うち、認定10人、女性1人）
- (3) 事務局体制 3人（専任2人、兼任1人）

## 3 掲げた目標

- (1) 担い手への農地の集積・集約化  
新規集積目標面積 11ha
- (2) 耕作放棄地対策  
解消目標面積 10ha

## 4 目標達成に向けた取組み（運動）の内容

- (1) 担い手への農地の集積・集約化  
10月の総会の前に農地利用状況調査及び農地パトロールにより、遊休農地の初期段階での確認を実施し、耕作放棄地解消及び担い手への農地集積を行った。
- (2) 耕作放棄地対策  
12月の総会前に非農地化の現地確認を実施し、今後の村としての非農地化に向けた流れについて協議を行った。



(農地利用状況調査及び農地パトロール)



(耕作放棄地の現地確認)

## 5 取り組みの成果

### (1) 担い手への農地の集積・集約化

新規集積面積 37ha

農業委員及び農地利用最適化推進委員の積極的な活動で目標が大きく超える集積・集約ができた。

### (2) 耕作放棄地対策

解消面積 8ha

目標は10haだったが、費用等の関係で目標に達していない。

## 6 課題と今後の方針等

- ・ 現在も熊本地震による農地の被害箇所が多くあり、今後、復旧作業計画がある圃場整備等で出来るだけ、担い手に利用調整を行なっていく。
- ・ 耕作放棄地の解消には、かなりの時間、費用、労力を要するため、地震後の被害農地を出来るだけ荒廃させないように各種事業を活用しながら農地保全への周知を行なう。  
また、さらなる耕作放棄地の増加が懸念されるため、遊休農地の初期段階での「確認」「解消」を行ない、速やかに担い手農家へのあっせんを進めていく。